



緑豊かな武甲山を夢見て

小澤信彦 nobuhiko.ozawa@toko-geo.co.jp

東興ジオテック株式会社 (<https://www.toko-geo.co.jp/>)



1. はじめに

今回『新 会員の自慢』を担当させていただくことになりました。東興ジオテック株式会社技術本部技術開発部所属の小澤です。

本コラムは、会員自身の紹介をするといった趣旨ということで、前号で執筆した中村 剛様、そして編集委員長の岡 浩平先生から依頼があり、お引き受けすることにしました。

私は2015年に東興ジオテック株式会社へ入社し、今年の4月で勤続10年になりました。入社後の5年間は施工管理業務に従事し、2020年度に現在の技術本部へ着任しました。今は技術開発や独自緑化工法に関する問い合わせ対応・調査・検討が主な業務内容です。試験施工ではノズルを持つこともあります(冒頭の写真)。

検討案件については、地域を問わず全国で対応していますが、私が計画した現場はまだ施工に至っていません。今後、施工された際には、本誌へ投稿したいと思っています。

当学会へは、技術本部への着任以降から深く関わるようになり、斜面緑化研究会第18期幹事として部会にも参画させていただいています。また、第50巻2号において、特集と技術報告で初めて学会投稿をしました。学術的な文章を書く難しさを痛感するとともに、自身のスキルアップのためにも続けていくことが重要だと感じています。

2. 東興ジオテックについて

弊社は、1956年にアメリカから輸入した吹付機を使用した吹付工事会社として設立されました。その後、吹付機を用いた種子吹付工法で緑化工事分野に進出し、1974年には無土壌岩石地の緑化を可能とした厚層基材吹付工(ON吹付緑化工法)を日本で初めて施工しました²⁾。そして、国内産の在来木本植物を播種工で導入する「斜面樹林化工法」や国内産の在来草本植物を播種工で導入する「原風景緑化工法」を実用化し、国内産在来種子を中長期的に貯蔵可能な専用貯蔵施設「RSセンター」、休眠性の高い種子でも1週間前後で発芽力の検定が可能な「早期発芽力検定法」といった独自の技術によって、ネイチャーポジティブに貢献する法面緑化に長年取り組んできた会社です。そのほかにも、多様なニーズに対応する独自緑化工法を取り揃えています。詳細は弊社ホームページや第32巻3号、第37巻4号の「コラム・会員の自慢」を参照いただけたらと思います(学会HP下部のバナーから弊社HPにアクセスすることも可能です)。

3. 私の経歴について

まじめな内容はここまでにして、このコラムの趣旨である私自身のことをもう少し紹介させていただこうと思います。

私は埼玉県秩父市に生まれ、埼玉県立秩父農工科学高等学校森林科学科を卒業後、東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科に進学し、治山緑化学研究室で福永健司先生と橋隆一先生にご指導いただきました。

大学時代の卒業論文のテーマは、ジブチ共和国で採取した種子を用いた発芽・生育試験をしていました。学生の身ではありましたが、現地への種子採取に同行させていただき、大変貴重な経験をさせていただきました(写真-1)。橋先生とは今でも懇意にさせていただいています。

4. 林学・緑化工学に興味を持ったきっかけ

高校・大学と森林・林業について学んでいた私ですが、そのきっかけというのは、大工である父と、生まれ故郷の秩父の象徴ともいえる武甲山(写真-2)にあります。

父は、大工一筋50年になる根っからの職人です。今では地域を代表する大工となり、あちらこちらへと引っ張りだこのようです。幼い頃から木材に触れることが多く、小学校の夏休みの宿題などでは、父と共に木工作品を造っていました。木材や林業、樹木に興味を持ち始めたきっかけは父にあると思っています。

武甲山は、秩父市を象徴する鉱山で、今でも石灰の採掘が行われています。緑化工学に興味を持つきっかけとなったのが、この武甲山といっても過言ではありません。



写真-1 当時ジブチ共和国で採取した種子



写真-2 実家から撮影した武甲山

祖母の家には武甲山が開発される以前の写真が飾ってありました。祖母はその写真を見ながら、「昔のような自然豊かな山には二度と戻らない」と話をしていたことがありました。高校受験の際、その頃の話を出しながら「緑豊かな武甲山を見てみたい」「武甲山の自然回復に携わってみたい」と考えたことがきっかけで、林学を学べる高校への進学を決め、「緑化学」という分野を知りました。

そして、高校時代に福永健司先生や弊社社員が日本緑化工学会誌に投稿した論文・技術報告に触れ、東京農業大学へ進学し、現在に至っています。

5. 趣味や地元との関わり

岡 浩平先生からは、趣味等の内容でも構わないと伺っているため、趣味や地元との関わりについて触れたいと思います。趣味として、体力的に余裕がある休日は卓球をしています。

中学・高校と6年間卓球部に所属しており、30代になって著しい体力の低下と体型の変化に危機感を抱いたことをきっかけに卓球を再開しました(写真-3)。当時一緒に卓球をやってきたメンバーと団体戦に出場することもあります。

そして、地元との関わりについては、祭り行事に極力参加するようにしています。

秩父市には、毎年12月3日に「秩父夜祭」というお祭りが催されます。このお祭りは、日本三大曳山祭りの1つであり、2016年にはユネスコ無形文化遺産にも登録されました。

秩父夜祭は、秩父神社の神様と武甲山の神様が年に1度逢引きをするお祭りと言われており、起源は正確にわからないものの、現在の形で300年以上続いているそうです¹⁾。

施工管理業務に従事していたころ、埼玉県内の現場に就き、秩父出身であることを元請けの現場代理人に伝えると「夜祭の日は現場に来るな」と言われたことがありました。その代理人曰く、秩父の人間は夜祭が近づくと落ち着きがなくなり、事故が起こりやすいのだとか。私自身も夜祭が近づくと落ち着かない気持ちになるので、妙に納得してしまいます。それほど大切なお祭りなのだと思います。

2025年5月25日には、第75回全国植樹祭が秩父市で催されます。お祭りで曳き回される傘鉾・屋台が市内に飾り置きされるとのこと。ご興味のある方は、ぜひ足をお運び下さい。



写真-3 試合中の様子



写真-4 秩父夜祭の様子 下郷傘鉾と花火

6. おわりに

前回の中村 剛様との内容の落差に不安を感じていますが、このコラムを通じて地元愛に溢れた人間であると思っていたのであれば幸いです。

勤続10年を迎えたこのタイミングで、このコラムの執筆をできたことは、良いきっかけだったと思っており、自身が緑化学に興味を持つきっかけを振り返ることができました。

高校生の頃は、「武甲山に自然を戻したい」そんな漠然とした考えしか持てませんでした。今では「岩盤斜面でも緑化できる弊社の技術を駆使すれば、あの山全体を本来の姿に回復できるのではないか」と思えるようになりました。いつかは秩父(武甲山)の緑化に貢献できるよう精進するとともに、そのチャンスを掴み取る努力をしていきたいと思っています。

会員の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

参考資料

- 1) 観光庁. “地域観光資源の多言語解説文データベース” 国土交通省官公庁ホームページ. <https://www.mlit.go.jp/tagengo-db/R1-01213.html> (参照: 2025年4月1日).
- 2) 吉田 寛 (2024) わが国で初めて行われた厚層基材吹付工の試験施工地, 日本緑化工学会誌, 29(4): 532-540.